## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 1 日現在

機関番号: 16201

研究種目: 基盤研究(C)(一般)

研究期間: 2012~2017

課題番号: 24593479

研究課題名(和文)認知症高齢者の人生の統合を促すケアプログラムの開発と評価

研究課題名(英文) Development of care program for assisting elderly person with dementia achieving ego integrity based on their stress pattern

#### 研究代表者

大森 美津子(Omori, Mitsuko)

香川大学・医学部・教授

研究者番号:70251072

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文):本研究の目的は、認知症高齢者の人生の統合に向かう生活行動の実態と人生の統合へ向かうケアを明確にすることである。 研究者は、施設内で暮らす認知症高齢者を参加観察した。そこで観察された認知症高齢者の行動、感情、思い、ストレス、人間関係、環境を包括的に分析し、日常生活で直面する人生の課題をまとめた。 また、認知症高齢者に行なわれた人生の統合へ向かうケアをまとめた。

研究成果の概要(英文): This study aimed to understand the actual living activities of elderly persons with dementia, who were moving toward ego integrity, and clarify care for assisting the persons develop ego integrity. We observed elderly nursing home residents with dementia at their nursing home. Through comprehensive analysis of the observed behaviors, feelings, thoughts, stresses, human relations and environment, we summarized challenges of life faced in everyday life. Also, a summary was prepared on care provided to the elderly persons with dementia for assisting them develop ego integrity.

研究分野: 老年看護学

キーワード: 認知症高齢者 ストレス 人生の統合 施設 ケア

#### 1.研究開始当初の背景

近年わが国では人口の高齢化の進展に伴い,認知症高齢者が大きく増加しており,2005年に約170万人であり,2015年には250万人になると推測されている.急速な高齢化に向けて立てられたゴールドプラン21では,認知症高齢者支援対策の推進「高齢者が尊厳を保ちながら暮らせる社会」が挙げられているまた,「高齢者介護研究会報告書」からも認知症高齢者ケアの標準化,方法論の確立を目指した認知症高齢者の専門的なケアの開発・整備は高齢者介護の中心的な課題となっている

認知症高齢者の尊厳を重視した介護や専 門的なケアを考える上で,認知症高齢者の心 理状態や体験の意味の理解は重要である.介 護する家族や医療従事者のストレスについ て研究したものは多く見られる 1). しかし 認知症高齢者については、ライフイベントが 認知症の発症や憎悪に影響するのではない かという示唆が事例を通して得られている 2). 認知症高齢者のストレスを軽減し,対人交流 の促進や情動機能の回復などを図るために、 回想法,アクティビティケアや動物介在療法 などが行われている.鈴木ら3)は,認知症高 齢者のアクティビティケアや動物介在療法 の効果についてクロモグラニンAをストレ ス指標として用い検討して,ストレス指標は 評価として有効であるとしている.このよう に認知症高齢者のストレスは、ケアの評価な どに用いられ、ストレス指標の有効性が認め られている.

私たちの認知症高齢者のストレスに関す る研究4)では,ストレス指標である唾液アミ ラーゼ活性値を用いて,1)通所リハビリテー ション(以下デイケアと略す)とグループホ ームの認知症高齢者のストレス特徴を明ら かにした.デイケアの認知症高齢者のストレ スは,来所時に高く,退所時に軽減していた が,グループホームの認知症高齢者は有意な 変化は認められなかった . 2) 認知高齢者のス トレスは,同じプログラムや出来事において, 増加もしくは軽減の相反する反応があった. さらに質的な分析を加えて,ストレスと行動 の分析から認知症高齢者の人生の課題を推 測することができた . 3)5 名の認知症高齢者 のストレスの質的分析から,特徴的な2つの ストレスのパターンが明らかになり,ストレ スを軽減し,人生の統合を促すケアの可能性 が示唆された.

## 2.研究の目的

高齢者は発達の視点から捉えると人生の統合の段階にある.認知症高齢者も健康な高齢者と同様な発達段階にあると考えられる.認知症高齢者に関する研究では,認知症高齢者の経験や体験についての研究の数は少なく,自ら語ることができる認知症高齢者の体験を対象として研究されている.それら

の研究は,語ることができる認知症高齢者の 心理的側面の解明にとどまる傾向にある.認 知症高齢者も人生の統合の時期を迎えてお り,その視点に立った援助が必要である.

本研究では,認知症高齢者のストレスパターンを踏まえた人生の統合に関わる体験の内容から人生の課題を明らかにし,人生の統合を促すケアプログラムの開発へ向けてそれらのケアの要素を明らかにすることが目的である.

#### 3.研究の方法

#### (1)対象

対象は,特別養護老人ホームに入所する認知症高齢者9名,ショートステイセンターに入所する2名の合計 11 名であった.女性9名,男性が2名であった.

### (2)データ収集・分析方法

認知症高齢者に,唾液アミラーゼ活性値の 測定と参加観察による行動観察を行った. 唾液アミラーゼ活性値の測定は,朝,昼食前, 夕食前,入浴や食事など日常的生活や他者と の関わりにおける出来事などの前後に行った.合計で4日間測定した.

研究者はケアに一部参加する観察法で,認知症高齢者の周辺でケアの場面に入り,また少し離れて行動しながら,10分ごとにプログラム(入浴・レクリエーションなど),出来事,認知症高齢者の表情や言動,他の人との関わり,環境に焦点を当てて記録した.同意を得て,ICレコーダーで録音した.唾液アミラーゼ活性値測定と同日に観察し,合計で4日間観察した.

分析は、フィールドワークのメモや逐語録、ストレス指標の結果をデータとした・唾液アミラーゼの数値と関連する内容を検討しながら、対象の言動、他者との関わり、出来事やプログラム、環境の、認知症高齢者のストレスとなる状況や直面している人生の課題に関わる内容を抽出した・抽出した内容の類似したものをまとめて抽象度を上げまとめた・またそこで行われているケアの内容を抽出してまとめた・認知症高齢者の観察時に用いた録音は、対象の発言内容を逐語禄とし、観察の記録に用いた・

### (3)倫理的配慮

研究代表者の所属機関の倫理委員会の承認を得て実施した.管理者・スタッフ,入居者家族に説明を行い,同意を得た.入居者は文書により説明し,同意を得た.

認知症高齢者は,説明を受けても忘れる可能性があるので,関わるごとに説明と同意を 得た.

#### 4.研究成果

(1)認知症高齢者が直面している人生の課題 認知症高齢者が今生きている人生や今 まで生きてきた人生を語り,その中にある 死生観,人生観,心の苦しみに見られた. 死生観では,身近な人の死に伴う死の恐怖, 悲嘆,生き方への影響があった.反対に自 我の統合に近い深い知恵も見られた.

人生観は,家や家族,親しい人との体験, 仕事での体験から語られた.家や家族・親 しい人に関しては,共に過ごした体験や思い,共に成してきたこと,家や家族,親し い人に悔いていることが見られた.

仕事では,仕事での想いや取り組み,仕事で成してきたこと,仕事でやり残したことが見られた.

認知症高齢者が,日常の生活やこれまで生きてきた人生の語りの中にある自分の存在を示すものに見られた.特別な思いで大切にしているもの,特別な思いで大事な人,その人独自のあり方が見られた.その人独自のあり方とは,日頃物事に取り組む姿勢や考え等,世話してくれている人との関わり方であった.

認知症高齢者が,日常の生活やこれまで生きてきた人生の語りの中にある自分の心との向き合い方に見られた.何もわからない自分にどう向き合うのか,何もできない自分にどう向き合うのか,レクリエーションや人との関わりの中の感情に見られた.

認知症高齢者が、日常の生活やこれまで生きてきた人生の語りの中にある自分の体との向き合い方に見られた、体への関心があり、体の状態の判断を行っており、セルフケアを行っていた、セルフケアの中に外レスを軽減するその人のあり方が見られた.

(2) 認知症高齢者の人生の統合へ向けたケアの要素

認知症高齢者は,老年期にあり,長い人生を生きてきたその人の知恵や課題に気づき,共に向き合い,その人の人生を生き,死を迎える準備を共に行うことである.

認知症高齢者の人生の中にある死生観,人生観,心の苦しみへのケアは,まず信頼関係を築き,認知症高齢者の気持ちを理解していることである.死別の体験や人生の生き方を語るライフストーリーを聞き,死生観や人生観を理解する.そこに死の恐怖,悲しみ,苦しみがあれば受けとめ,本人自らが感じていることに気づき,次に向かう準備を共に行うことである.また,心の苦しみを生み出す自分のあり方に気づくのを支援する.

家長や家族の一員として,仕事において成し得たことを認められるように支援する.その中で解決できていないことを共に考えられるように支援する.

認知症高齢者が,自分の存在を示すものへのケアは,本人が特別に大切にしているものや人間関係を知り,尊重することである.本人独自の行動や思考のあり方を理解し,認め尊重する.他者の世話や他者への気遣いを認めることである.

認知症高齢者の自分の心や体との向き合い方へのケアは,心や体の状態の訴えを受けとめて,心身の状態を知り,本人が行う心と体のケアの方法を理解し見守る.必要時,ケアの方法を共に考えたり,説明を丁寧に行った上でケアを行い,環境の調整を行うことである.

加えて,認知症高齢者の自分の心との向き合い方へのケアは,何もわからない自分には,何もわからない気持ちを受けとめる何もわからず他者に依存しようとする時は,沈黙や本人の言葉を繰り返しを行うなどでリズムを変え,本人が考えられるように支援する.

何もできない自分には,何もできないから視点を変え,何かをしたい自分を見つけ, 現実と折り合いのつく行動を共に考える.

レクリエーションや人との関わりでは,本人の表現の場を提供し,喜び,楽しいなどの感情を共有する.能動的な動きや受動的な動きに着目し,その瞬間の思いを大切にする.本人の人生の回想や深い思索につながると問いかけや昔話・絵本などの材料を提供する.

今回,認知症高齢者が直面している人生の課題と人生の統合へ向けたケアの要素が抽出された.認知症高齢者は,健常な人よりも深く人生の課題に関わり,体験をしていた.自らケアする方法も考え,実践していた.認知症高齢者の人生の課題とケアに着目した研究であり,認知症高齢者の強みを示す研究である.今後は,この内容をさらに洗練したいと考える.

研究の開始時は,ストレスパターンにより,認知症高齢者が類型化でき,認知症高齢者の人生の統合へ向かうケアは,ある程度類型化できると考えていた.この研究をまとめてこの考えが変わった.認知症高齢者の人生の課題やケアの要素を出すことはできるが,それぞれの認知症高齢者のではないと考える.人生の課題についとり理解してわかるようになった上で,ひとり丁寧に言動を分析し,体験の内容をまとめてケアを導く必要がある.

また,認知症高齢者は,様々な人生の課題の達成レベルの人がおり,体験の内容を理解するには同じレベルか,近いレベルにいる必要がある.とても離れていると理解が難しいため,ケアする者は自らの人間性を高める努力が重要となる.様々な認知症

高齢者に関わることで,ケアする者は深い 学びの機会を得ると考えるに至った.

### <引用文献>

- 1)新名理恵:介護のストレス・モデル,ストレス科学,10(3),220-223,1995.
- 2)須貝佑一: 痴呆の発症・憎悪に影響する ライフイベント,精神治療学,15(8), 837-842,2000.
- 3) 鈴木みずえ,金森雅夫,他:痴呆高齢者 の音楽療法における行動障害,ストレス, 免疫機能に関する評価手法の検討,日本 老年医学会雑誌,42(1),74-82,2005.
- 4)大森美津子,小林春男他:通所リハビリテーションに通う認知症高齢者のストレスの事例研究,香川大学看護学雑誌, 11(1),47-55,2007.

## 5 . 主な発表論文等 (研究代表者,研究分担者及び連携研究者に は下線)

[雑誌論文](計 0 件)

### [学会発表](計 2 件)

大森美津子 . 認知症高齢者 A 氏における 環境との関わりからみた人生の課題 -施設で共に暮らす人々に焦点をあてた - 第35回日本看護科学学会学術集会, 2015.

大森美津子・西村美穂・政岡敦子.通所 リハビリテーションに通う認知症高齢 者のストレスの傾向と人生の課題.日本 看護研究学会第39回学術集会,2013.

### 6. 研究組織

#### (1)研究代表者

大森 美津子 (Omori Mitsuko) 香川大学・医学部・教授 研究者番号:70251072

#### (2)研究分担者

西村 美穂 (Nishimura Miho) 香川大学・医学部・助教 研究者番号: 20511546

### (3) 研究分担者

政岡 敦子 (Masaoka Atuko) 香川大学・医学部・助教 研究者番号:50618957

# (4) 研究分担者

森河 佑季 (Morikawa Yuki) 香川大学・医学部・助教 研究者番号:10812935

### (5)研究協力者

菊地 佳代子 (Kikuchi Kayoko) 香川大学・医学部附属病院看護部・看護師